



**Value from Innovation**

**富士フイルムホールディングス株式会社**

2024 年 3 月期第 2 四半期決算説明会

2023 年 11 月 8 日

# イベント概要

---

[企業名] 富士フイルムホールディングス株式会社

[企業 ID] 4901

[イベント言語] JPN

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2024 年 3 月期第 2 四半期決算説明会

[決算期] 2024 年度 第 2 四半期

[日程] 2023 年 11 月 8 日

[ページ数] 34

[時間] 16:10 – 17:11  
(合計：61 分、登壇：21 分、質疑応答：40 分)

[開催場所] インターネット配信

[会場面積]

[出席人数]

[登壇者] 6 名  
代表取締役社長・CEO 後藤 禎一 (以下、後藤)  
取締役・CFO 樋口 昌之 (以下、樋口)

取締役/富士フイルムビジネスイノベーション株式会社 代表取締役社長・

CEO 浜 直樹 (以下、浜)

取締役執行役員 コーポレートコミュニケーション部長 兼 ESG 推進部長

吉澤 ちさと (以下、吉澤)

富士フイルム株式会社

取締役執行役員 エレクトロニクス マテリアルズ事業部長

岩崎 哲也 (以下、岩崎)

富士フイルム株式会社

執行役員 ライフサイエンス戦略本部長 兼 バイオ CDMO 事業部長

飯田 年久 (以下、飯田)

## 登壇

---

**司会**：定刻となりました。ただいまより、富士フイルムホールディングス株式会社 2024 年 3 月期第 2 四半期決算説明会を開催いたします。本日はお忙しい中、当社の説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

本日の出席者を紹介させていただきます。富士フイルムホールディングス株式会社代表取締役社長・CEO、後藤禎一でございます。

**後藤**：よろしくお願いいたします。

**司会**：富士フイルムホールディングス株式会社取締役・CFO、樋口昌之でございます。

**樋口**：樋口でございます。よろしくお願いいたします。

**司会**：富士フイルムホールディングス株式会社取締役、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社代表取締役社長・CEO、浜直樹でございます。

**浜**：浜です。よろしくお願いいたします。

**司会**：富士フイルムホールディングス株式会社取締役執行役員、コーポレートコミュニケーション部長兼 ESG 推進部長、吉澤 ちさとでございます。

**吉澤**：吉澤でございます。よろしくお願いいたします。

**司会**：富士フイルム株式会社取締役執行役員、エレクトロニクスマテリアルズ事業部長、岩崎哲也でございます。

**岩崎**：岩崎です。よろしくお願いいたします。

**司会**：富士フイルム株式会社執行役員 ライフサイエンス戦略本部長兼バイオ CDMO 事業部長 飯田年久でございます。

**飯田**：飯田でございます。よろしくお願いいたします。

**司会**：私は本日の司会を務めさせていただきます、コーポレートコミュニケーション部の長澤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

## 本日のアジェンダ – 2024年3月期 第2四半期 決算説明会 –

---

### 2024年3月期 上期(2023年4月～9月)

#### 1 | 決算ハイライト及びトピックス

富士フイルムホールディングス株式会社 代表取締役社長・CEO **後藤 禎一**

#### 2 | 連結業績及び事業概況

富士フイルムホールディングス株式会社 取締役・CFO **樋口 昌之**

### 2024年3月期

#### 3 | 連結業績予想

富士フイルムホールディングス株式会社 取締役・CFO **樋口 昌之**

© FUJIFILM Holdings Corporation 2

本日の説明会の流れは、まず後藤より、決算ハイライトおよびトピックスにつきまして説明いたします。続いて樋口より、連結業績および事業概況、2024年3月期の連結業績予想につきまして説明いたします。その後、質疑応答を行います。

それでは、後藤より説明いたします。

## 2024年3月期 上期 決算ハイライト

## 2024年3月期 上期 連結業績



## 2024年3月期 通期連結業績予想



後藤：後藤です。まず私から、富士フイルムホールディングスの2024年3月期上期連結決算の概要をご説明させていただきます。

上期の売上高は1兆3,885億円、営業利益は1,255億円、当社株主帰属四半期純利益は1,136億円となりました。

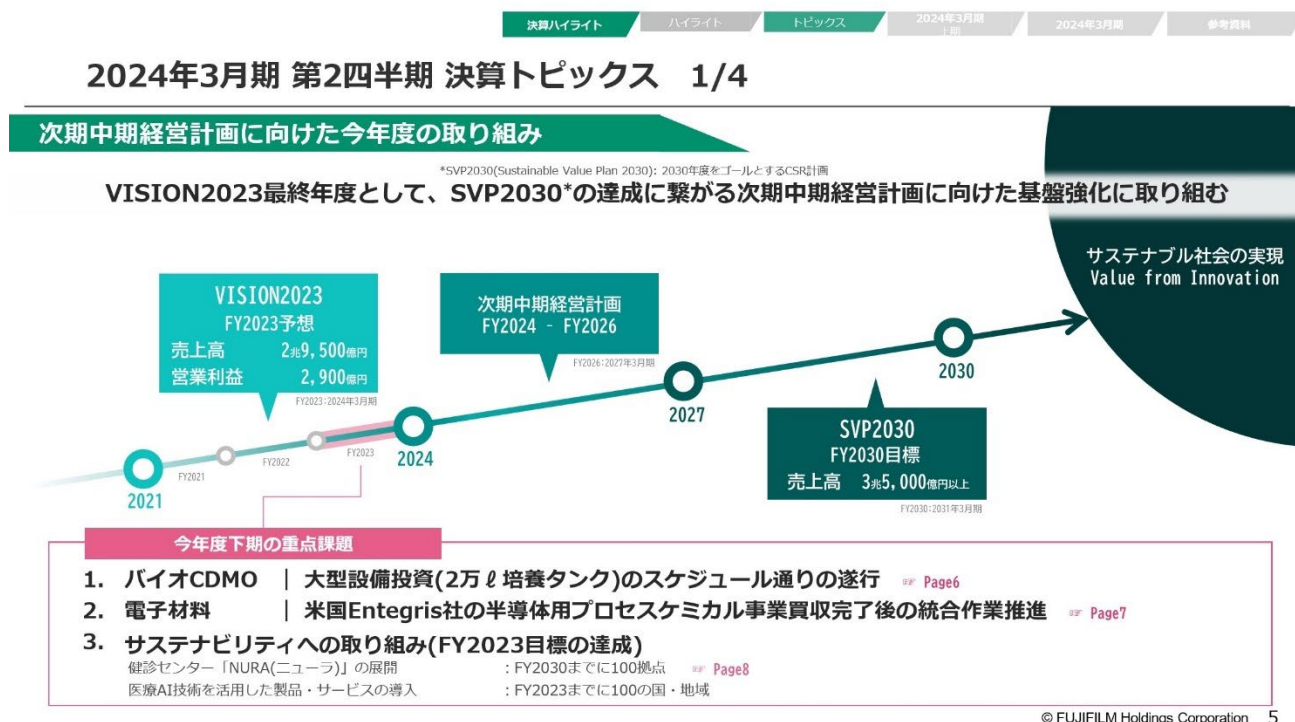
売上高はメディカルシステムやイメージングの販売が好調だったことに加え、為替影響もあり、増収となりました。

営業利益は半導体市況停滞の影響などを受けるも、イメージングの大幅な増収などが貢献し、上期過去最高益を達成しました。

当社株主帰属四半期純利益についても、営業利益の増加に加え、投資有価証券の評価益を計上したことなどにより、上期過去最高益を達成しました。

2024年3月期の通期連結業績予想は、イメージングの好調や半導体市況などの現在の経済環境を見据えて、一部事業で見直しを行います。全体では据え置き、売上・利益の過去最高更新を目指します。

2024 年 3 月期の年間配当予想は、前回お伝えいたしました通り、14 期連続増配となる 150 円でございます。



次に、第2四半期のトピックスをお話しします。

今年度は現中期経営計画 VISION2023 の最終年度として、来年度からスタートする次期中期経営計画に向けた基盤強化に取り組み、2030 年度をゴールとする SVP2030 の達成に繋げていきます。

今年度下期の重点課題は、次の三つでございます。

一つ目は、バイオ CDMO で大型設備投資をスケジュール通り遂行すること。二つ目は、電子材料で米国インテグリスの半導体用プロセスケミカル事業の買収完了後の統合作業を推進すること。そして三つ目は、サステナビリティへの取り組みです。

次のページより、それぞれの取り組みをご説明いたします。

## 2024年3月期 第2四半期 決算トピックス 2/4

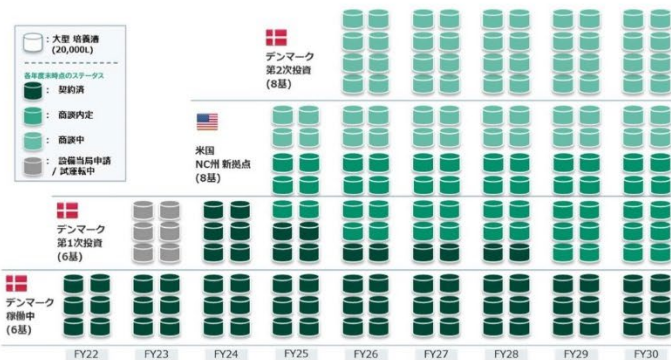
## 次期中期経営計画に向けた今年度の取り組み

## ■ バイオCDMO

## 大型設備投資(2万ℓ培養タンク)のスケジュール通りの遂行

- 2024年度稼働予定のデンマーク拠点(第1次投資)の立ち上げは順調に進捗中
- 本稼働に向けた大手製薬企業との商談を推進

Johnson & Johnsonグループ  
Janssen Supply Group, LLCと米国新拠点の大型設備による製造を受託。※今年度中に本契約締結予定



© FUJIFILM Holdings Corporation 6

まず、バイオ CDMO の取り組みについてです。

デンマーク拠点と米国ノースカロライナ拠点での2万リットル培養タンクを増設する大型設備投資をスケジュール通り遂行いたします。

具体的には、当初の予定通り建設が進んでいるデンマーク拠点の第1次投資について、確実に立ち上げを行い、2024年度からの本稼働に繋げてまいります。加えて、現在建設中の米国新拠点、およびデンマーク拠点の第2次投資を含め、本稼働に向けて大手製薬企業との商談を推進してまいります。

その一例をご紹介しますと、今回、グローバルに事業を展開するヘルスケア企業、ジョンソンエンドジョンソングループのヤンセンサプライグループより、同社のバイオ医薬品の製造を受託してまいります。これは当社とヤンセンが築いてきた良好な関係性から結実したもので、今後、長期にわたってヤンセンのパイプラインの治験薬製造・商業生産ニーズに対応してまいります。

当社は、バイオ CDMO に約70億ドルに及ぶ戦略的投資によって大幅な生産能力拡大を進めており、今後も新設備の立ち上げとお客様との商談を並行して進め、早期に収益貢献を実現する体制を構築してまいります。

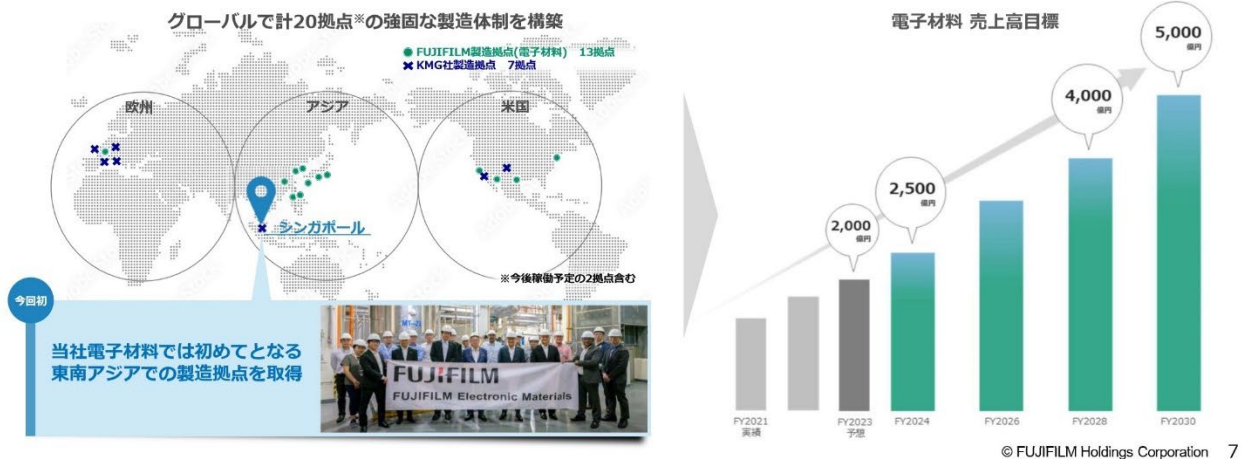


## 2024年3月期 第2四半期 決算トピックス 3/4

## 次期中期経営計画に向けた今年度の取り組み

## ■ 電子材料

米国Entegris社の半導体用プロセスケミカル事業の買収が完了(2023年10月)  
買収事業の統合を推進し、グループシナジーを早期に創出



続いて、電子材料の取り組みについてです。

今年10月に買収が完了したインテグリス社の半導体用プロセスケミカル事業の統合を推進し、グループシナジーを早期に創出することで、電子材料の成長加速に繋げてまいります。

本買収によって、製品ポートフォリオ拡充による販売力強化とともに、グローバル製造体制の更なる強化を図ります。既存の11製造拠点到、当社電子材料としては初めてとなる東南アジアの製造拠点を含む、7拠点到、グローバルで合計18拠点の強固な製造体制となりました。

さらに2024年に稼働する熊本、韓国を加えた全20拠点で、より強靱なサプライチェーンを構築し、半導体業界の発展に貢献してまいります。

## 2024年3月期 第2四半期 決算トピックス 4/4

## 次期中期経営計画に向けた今年度の取り組み

がん検診を中心とした健診センター「NURA」をモンゴル国ウランバートルにオープン  
2030年度までに新興国を中心に世界100拠点まで拡大を図る



今回初

## パートナー契約による「NURA」の開設

1995年より写真事業で協業してきた複合企業「Tavan Bogd Group」とテクノロジーパートナー契約を締結



モンゴル国・オヨーンエルズネ首相らと

オープニングセレモニー

## 2030年度目標

グローバル拠点数

**100** 拠点

© FUJIFILM Holdings Corporation 8

最後にサステナビリティへの取り組みとして、検診センターNURAの展開について説明いたします。

本年9月にがん検診を中心とした検診センター、NURAをモンゴル国ウランバートルにオープンしました。本拠点は2021年にベンガルールにNURAを開設して以来、4拠点目となります。

当社はこれまでNURAを通じて延べ1万6,000人に対し、健診サービスを提供してきました。

今回、1995年より写真事業で協業してきた複合企業タバンボグドグループとのパートナーシップのもと、これまでインドで蓄積してきた健診サービスのノウハウをもとに、モンゴル国で高品質な検診サービスを提供する環境を構築し、モンゴル国の医療の質向上に貢献してまいります。

また、今月には、5拠点目をインドのハイデラバードに開設する予定です。

当社は、2030年度までに新興国を中心に世界100拠点まで拡大し、日本の検診・予防文化を普及させていくことで、人々の健康維持増進に寄与していくとともに、当社の持続的な成長に繋げてまいります。

私からの説明は以上です。続きまして、樋口より説明いたします

2024年3月期 上期 業績 (2023年4月～2023年9月)

(単位：億円)

|                   | 上期               |                  |               |                                                                 |               |
|-------------------|------------------|------------------|---------------|-----------------------------------------------------------------|---------------|
|                   | 2023年3月期         | 2024年3月期         | 対前年度          | 為替影響                                                            | 為替影響<br>除く    |
| 売上高               | 13,499<br>100.0% | 13,885<br>100.0% | 386<br>+2.9%  | 363                                                             | 23<br>+0.2%   |
| 営業利益              | 1,208<br>8.9%    | 1,255<br>9.0%    | 47<br>+3.9%   | 87                                                              | -40<br>-3.2%  |
| 税金等調整前四半期純利益      | 1,295<br>9.6%    | 1,521<br>11.0%   | 226<br>+17.4% | 90                                                              | 136<br>+10.5% |
| 当社株主帰属四半期純利益      | 952<br>7.0%      | 1,136<br>8.2%    | 184<br>+19.3% | 62                                                              | 122<br>+12.8% |
| 1株当たり当社株主帰属四半期純利益 | 237.39円          | 283.08円          | 45.69円        | <その他増減要因（対前年度）><br>営業利益における<br>原材料価格影響： -5億円<br>(半導体等の部材価格は含まず) |               |
| 為替<br>：米ドル        | 135円             | 142円             | 7円安           |                                                                 |               |
| ：ユーロ              | 139円             | 153円             | 14円安          |                                                                 |               |

樋口：樋口でございます。私から、連結業績および事業概況を説明いたします。

2024年3月期上期の業績は、売上高はメディカルシステムやイメージングの販売好調や、為替の円安影響により、前年比2.9%増の1兆3,885億円となりました。

営業利益は、バイオCDMOやLSソリューションで棚卸資産の評価減を第1四半期に計上し、また、電子材料で市況軟化の影響を受けた中でも、増収による増益、および為替影響などで、前年比3.9%増の1,255億円となりました。

当社株主帰属四半期純利益は、営業利益の増加に加え、投資有価証券評価益の計上などにより、前年比19.3%増の1,136億円となりました。

セグメント別 連結売上高 | 営業利益

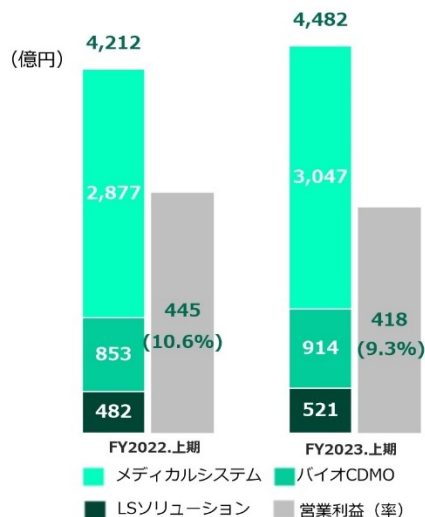
| (単位：億円)      |              |              |      |        |        |        |
|--------------|--------------|--------------|------|--------|--------|--------|
| 売上高          | 上期           |              | 対前年度 |        | 為替影響除く |        |
|              | 2023年<br>3月期 | 2024年<br>3月期 |      |        |        |        |
| ※ ヘルスケア      | 4,212        | 4,482        | 270  | +6.4%  | 125    | +3.0%  |
| ※ マテリアルズ     | 3,469        | 3,196        | -273 | -7.9%  | -366   | -10.5% |
| ビジネスイノベーション  | 3,984        | 4,015        | 31   | +0.8%  | -14    | -0.4%  |
| イメージング       | 1,834        | 2,192        | 358  | +19.5% | 278    | +15.1% |
| 合計           | 13,499       | 13,885       | 386  | +2.9%  | 23     | +0.2%  |
| *セグメント間取引消去後 |              |              |      |        |        |        |
| (単位：億円)      |              |              |      |        |        |        |
| 営業利益         | 上期           |              | 対前年度 |        | 為替影響除く |        |
|              | 2023年<br>3月期 | 2024年<br>3月期 |      |        |        |        |
| ※ ヘルスケア      | 445          | 418          | -27  | -6.0%  | -40    | -9.0%  |
| ※ マテリアルズ     | 385          | 186          | -199 | -51.5% | -226   | -58.5% |
| ビジネスイノベーション  | 301          | 330          | 29   | +9.6%  | 26     | +8.6%  |
| イメージング       | 266          | 494          | 228  | +85.5% | 184    | +69.1% |
| 全社/連結調整      | -189         | -173         | 16   | -      | 16     | -      |
| 合計           | 1,208        | 1,255        | 47   | +3.9%  | -40    | -3.2%  |

※ 2024年3月期より非破壊検査事業の売上高・営業利益の金額を「マテリアルズ」セグメントから「ヘルスケア」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2023年3月期の情報をリステートしています。

セグメント別の売上・利益はご覧の通りです。

## セグメント別概況：ヘルスケア

全サブセグメントにおいて増収となり、売上高対前年+6.4%、営業利益はバイオCDMOで前年度に計上したキャンセルフィーの反動等により、対前年-6.0%で着地。



## メディカルシステム

売上高 3,047億円 (対前年+5.9%)

- 内視鏡、医療IT等の販売が好調に推移し、増収。内視鏡では、国内で新製品の販売が好調だったことや、欧州等で販売が伸長。医療ITでは、医用画像情報システム(PACS)「SYNAPSE」や3D画像解析システム「SYNAPSE VINCENT」を中心としたシステム・サービス販売が米国・欧州を中心に好調に推移。

## バイオCDMO

売上高 914億円 (対前年+7.0%)

- 前年度にワクチン原薬製造に関するキャンセルフィー収入を計上した反動があるも、抗体医薬の製造受託がデンマーク拠点を中心に堅調に推移したことにより、増収。
- バイオベンチャー顧客の資金調達難を背景とした遺伝子治療薬等の受託低調により、有効期限切迫となった共通部材・消耗品の評価減を第1四半期に計上。

## LSソリューション

売上高 521億円 (対前年+8.2%)

- ライフサイエンスは、バイオ医薬品製造用培地の原材料需給逼迫が改善し、出荷が進んだこと等により、増収。
- コロナワクチン用培地などに使用する一部原材料の評価減を第1四半期に計上。

※ 2024年3月期より非破壊検査事業の売上高・営業利益の金額を「マテリアルズ」セグメントから「ヘルスケア」セグメントに組み替えて表示しています。  
本区分変更にあわせ、2023年3月期の情報を見直ししています。

© FUJIFILM Holdings Corporation 12

ヘルスケアの業績の概要についてご説明します。

全サブセグメントにおいて増収を確保したことにより、売上高は前年比 6.4%増の 4,482 億円、営業利益は、今年度第 1 四半期に計上したバイオ CDMO、LS ソリューションでの棚卸資産評価減に加えて、バイオ CDMO で前年度に計上したキャンセルフィーの反動などにより減益となり、前年比 6.0%減の 418 億円となりました。

メディカルシステムは、内視鏡、医療 IT などの販売が好調に推移し、売上が増加しました。内視鏡では国内で新製品の販売が好調だった他、欧州等で販売が伸長いたしました。医療 IT では、医用画像情報システム SYNAPSE や、3D 画像解析システム SYNAPSE VINCENT を中心としたシステム・サービス販売が米国・欧州を中心に好調に推移しました。

バイオ CDMO は、前年度にワクチン原薬製造に関するキャンセルフィー収入を計上したことによる反動があるものの、デンマーク拠点を中心に抗体薬の製造受託が堅調に推移したことなどにより、売上が増加いたしました。一方で、バイオベンチャー顧客の資金調達難を背景とした遺伝子治療薬等の受託低調により、有効期限切迫となった共通部材・消耗品の評価減を第 1 四半期に計上しました。

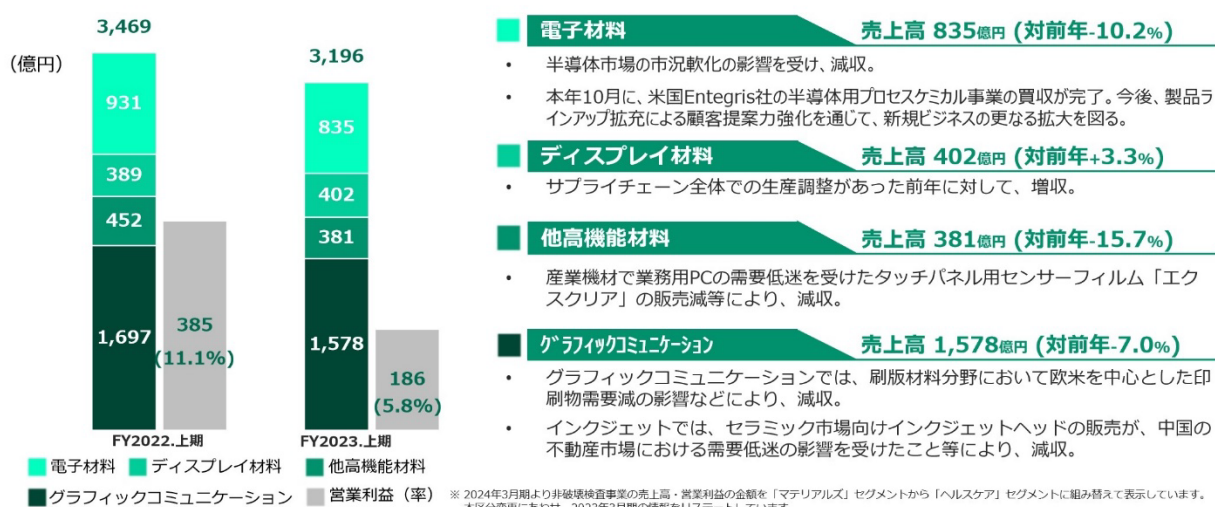


LS ソリューションは、バイオ医薬品用培地の原材料需給逼迫が改善し、出荷が進んだことなどにより、売上が増加しました。一方で、コロナ禍における調達リードタイム長期化を受けて先行確保した、コロナワクチン用培地などに使用する一部原材料が有効期限切迫となり、評価減を第1四半期に計上しました。

2023年3月期 上期(2023年4月～9月)

## セグメント別概況：マテリアルズ

半導体市況の停滞やインクジェットヘッドの需要減少等により、売上高対前年-7.9%、営業利益対前年-51.5%の減収・減益で着地。



© FUJIFILM Holdings Corporation 13

次に、マテリアルズです。

半導体市況の停滞やインクジェットヘッドの販売減少などにより、売上高は前年比 7.9%減の 3,196 億円、営業利益は前年比 51.5%減の 186 億円となりました。

電子材料は半導体市場の市況軟化の影響を受け、売上が減少しました。本年 10 月には、インテグリス社の半導体用プロセスケミカル材料事業の買収が完了しました。今後、製品ラインアップ拡大による顧客提案力の強化を通じて、新規ビジネスの更なる拡大を図ります。

ディスプレイ材料は、サプライチェーン全体での生産調整があった前年に対して、パネルメーカーの稼働が回復し、売上が増加しました。

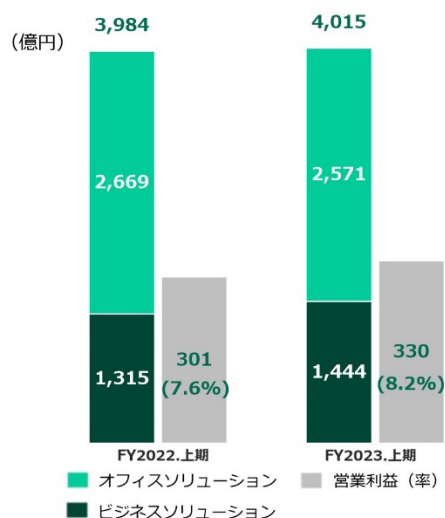
グラフィックコミュニケーションは、刷版材料分野において欧米を中心とした印刷物需要の減少影響などにより、売上が減少しました。インクジェットは、セラミック市場向けインクジェットヘッド

ドの販売が、中国の不動産市場における需要低迷の影響を受けたことなどにより、売上が減少しました。

決算ハイライト  
2024年3月期  
上期  
2023年3月期 上期(2023年4月～9月)

## セグメント別概況：ビジネスイノベーション

ビジネスソリューションの増収等により、売上高対前年+0.8%、営業利益対前年+9.6%と増収・増益で着地。



### オフィスソリューション 売上高 2,571億円 (対前年-3.7%)

- 新規OEMの拡大やワールドワイドでの価格改定等を実施するも、欧米向けの輸出が減少したこと等により、減収。
- 2023年9月より、新市場のインドにおいて、高いセキュリティレベルでテレワークなど多様な働き方を支援するコンパクトなA3カラー・モノクロ複合機（Apeos C3060 / C2560 / C2060 / 3560 / 3060 / 2560）の販売を開始。

### ビジネスソリューション 売上高 1,444億円 (対前年+9.8%)

- 国内自治体向けの売上が増加したことや、DX関連ソリューションの販売が増加したこと等により、増収。
- お客様のDXを通じた成功体験 CHX（カスタマー・ハッピー・エクスペリエンス）を実現するソリューション・サービスを展開。第一弾として、IT資産の可視化や運用／管理から環境改善支援まで、お客様のニーズに合わせてワンストップで提供するITサポートサービス「IT Expert Services」を2023年6月より提供開始。
- 第二弾として、中堅・中小企業向けを中心とするクラウドサービス「FUJIFILM IWpro」の提供を2023年11月より開始。お客様の利用システムを繋ぎ、情報の取得から活用、保管までを集約するワークスペース（統合環境）を提供。

ビジネスイノベーションの業績の概要です。

ビジネスソリューションの増収などにより、売上高は前年比 0.8%増の 4,015 億円、営業利益は前年比 9.6%増の 330 億円となりました。

オフィスソリューションは、新規 OEM の拡大や、ワールドワイドでの価格改定などを行いました。が、欧米向けの輸出が減少したことなどにより、売上が減少しました。

本年 9 月より、新市場であるインドにおいて、高いセキュリティレベルでテレワークなど多様な働き方を支援するコンパクトな A3 カラー・モノクロ複合機の販売を開始しました。

ビジネスソリューションは、国内で自治体向けの売上が増加したことや、DX 関連ソリューションの販売が増加し、売上が増加しました。

ビジネスソリューションでは、お客様の DX を通じた成功体験 CHX（カスタマー・ハッピー・エクスペリエンス）を実現するソリューションサービスを展開しています。

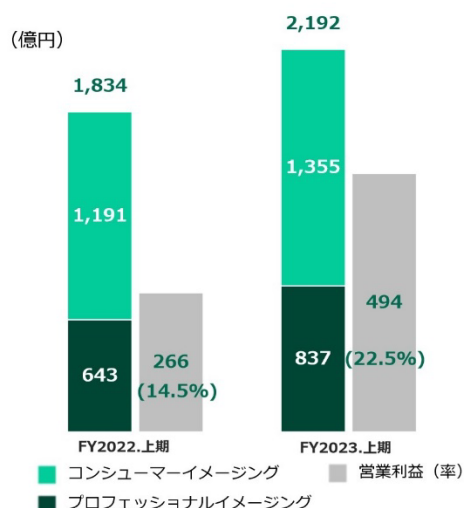
IT 資産の可視化や、運用・管理から環境改善支援まで、お客様のニーズに合わせてワンストップで提供する IT サポートサービス IT Expert Services に続く第 2 弾として、本年 11 月より中堅・中小企業向けを中心とするクラウドサービス FUJIFILM IWpro の提供を開始しました。

情報の取得から活用、保管までを集約するワークスペースを提供し、お客様の利用する様々な業務システムを繋ぐことで、多種多様な業務プロセスの改革を支援し、お客様の DX をさらに推し進めます。

2023年3月期 上期(2023年4月～9月) 決算ハイライト 2024年3月期 上期 全社 セグメント別 BS CF 2024年3月期 参考資料

## セグメント別概況：イメージング

インスタントフォトシステムやデジタルカメラの販売が好調に推移し、売上高対前年+19.5%、営業利益率対前年+85.5%と増収・増益で着地。



### コンシューマーイメージング 売上高 1,355億円 (対前年+13.7%)

- インスタントフォトシステムの販売が好調に推移し、増収。
- 2023年9月に、INSTAX“チェキ”シリーズの世界的な需要増に対応するため、チェキフィルムの生産設備増強を発表。
- 2023年10月には、いつでもどこでも気軽に撮影できる“手のひらサイズカメラ”「INSTAX Pal™」を発売。撮影シーンや撮影体験を広げる豊富な機能を搭載し、スマホプリンター「INSTAX Link™」シリーズ等とBluetoothで接続することで、撮った画像をチェキプリントにして楽しむことができ、市場から高い評価を獲得。

### プロフェッショナルイメージング 売上高 837億円 (対前年+30.2%)

- デジタルカメラは、前年度に発売した「X-H2」「X-H2S」「X-T5」に加え、2023年6月に発売した「X-S20」の販売も好調に推移し、大幅に増収。
- 2023年9月に、「GFXシリーズ」の最新モデルとして、シリーズ最高の高速連写・AF・動画性能を実現したフラッグシップモデル「GFX100 II」を発売。

© FUJIFILM Holdings Corporation 15

イメージングの業績です。

インスタントフォトシステムや、デジタルカメラの販売が好調に推移し、売上高は前年比 19.5%増の 2,192 億円、営業利益は前年比 85.5%増の 494 億円となりました。

コンシューマーイメージングでは、インスタントフォトシステム INSTAX の販売が好調で、売上が増加しました。

INSTAX は、2023 年 9 月に、INSTAX チェキシリーズの世界的な需要増に対応するため、チェキフィルムの生産設備増強を発表しました。



また、2023 年 10 月には、いつでもどこでも気軽に撮影できる手のひらサイズカメラ INSTAX Pal を発売しました。撮影シーンや撮影体験を広げる豊富な機能を搭載し、スマホプリンターINSTAX Link シリーズ等と Bluetooth で接続することで、撮った画像をチェキプリントにして楽しむことができ、市場から高い評価を獲得しています。

プロフェッショナルイメージングでは、前年度に発売した X-H2、X-H2S、XT5 に加え、2023 年 6 月に発売した X-S20 の販売も好調に推移し、大幅に増収となりました。2023 年 9 月には、GFX シリーズの最新モデルとして、シリーズ最高の高速連写・AF・動画性能を実現したフラッグシップモデル GFX100 II を発売いたしました。

決算ハイライト 2024年3月期 上期 全社 セグメント別 BS CF 2024年3月期 参考資料

2023年3月期 上期(2023年4月～9月)

## 連結貸借対照表

| (単位：億円)   |             |             |               |              |            |             |             |               |              |
|-----------|-------------|-------------|---------------|--------------|------------|-------------|-------------|---------------|--------------|
|           | 22年<br>3月期末 | 23年<br>3月期末 | 24年3月期<br>9月末 | 対23年<br>3月期末 |            | 22年<br>3月期末 | 23年<br>3月期末 | 24年3月期<br>9月末 | 対23年<br>3月期末 |
| 現金及び現金同等物 | 4,863       | 2,686       | 3,222         | 536          | 長短仕債及び借入金  | 4,472       | 3,762       | 5,472         | 1,710        |
| 受取債権      | 5,986       | 6,331       | 6,360         | 29           | 支払債務       | 3,032       | 3,204       | 3,225         | 21           |
| 棚卸資産      | 5,045       | 5,673       | 6,119         | 446          | その他流動・固定負債 | 6,800       | 6,498       | 6,789         | 291          |
| その他流動資産   | 1,353       | 1,621       | 1,649         | 28           | 負債計        | 14,304      | 13,464      | 15,486        | 2,022        |
| 流動資産計     | 17,247      | 16,311      | 17,350        | 1,039        | 株主資本計      | 25,027      | 27,631      | 29,749        | 2,118        |
| 有形固定資産    | 7,368       | 9,761       | 11,789        | 2,028        | 非支配持分      | 222         | 248         | 35            | -213         |
| 営業権       | 8,240       | 8,583       | 8,952         | 369          | 純資産計       | 25,249      | 27,879      | 29,784        | 1,905        |
| その他固定資産   | 6,698       | 6,688       | 7,179         | 491          | 負債・純資産合計   | 39,553      | 41,343      | 45,270        | 3,927        |
| 固定資産計     | 22,306      | 25,032      | 27,920        | 2,888        | (単位：円)     |             |             |               |              |
| 資産合計      | 39,553      | 41,343      | 45,270        | 3,927        | 期末日 為替レート  | 22年<br>3月期末 | 23年<br>3月期末 | 24年3月期<br>9月末 | 対23年<br>3月期末 |
|           |             |             |               |              | 米ドル        | 122         | 134         | 150           | 16円安         |
|           |             |             |               |              | ユーロ        | 137         | 146         | 158           | 12円安         |

バランスシートについて説明いたします。

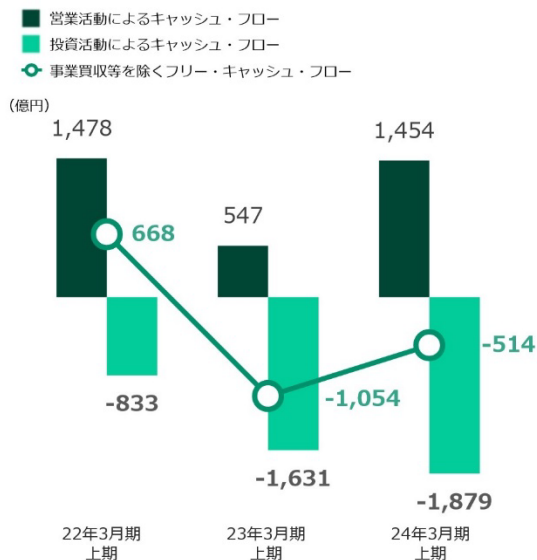
2024 年 3 月期 9 月末時点の資産合計は、有形固定資産や現金および現金同等物の増加などにより、2023 年 3 月期末時点と比べ、3,927 億円増の 4 兆 5,270 億円となりました。

負債は、2,022 億円増の 1 兆 5,486 億円となりました。

株主資本は、2,118 億円増の 2 兆 9,749 億円となりました。

2023年3月期 上期(2023年4月～9月)

## 連結キャッシュ・フロー



|                    | 22年3月期<br>上期 | 23年3月期<br>上期 | 24年3月期<br>上期 |
|--------------------|--------------|--------------|--------------|
| 当期純利益              | 984          | 966          | 1,127        |
| 減価償却費              | 650          | 708          | 718          |
| 受取債権の増(-)減(+)      | 579          | 93           | 260          |
| 棚卸資産の増(-)減(+)      | -473         | -894         | -159         |
| 営業債務の増(+)-減(-)     | 29           | 158          | -70          |
| その他                | -291         | -484         | -422         |
| 営業活動によるCF          | 1,478        | 547          | 1,454        |
| 設備投資               | -584         | -1,186       | -1,921       |
| ソフトウェアの購入          | -176         | -280         | -212         |
| 投資有価証券の売却・購入等      | -23          | 124          | 89           |
| 事業買収               | 0            | -154         | -            |
| その他                | -50          | -135         | 165          |
| 投資活動によるCF          | -833         | -1,631       | -1,879       |
| フリー・キャッシュ・フロー(FCF) | 645          | -1,084       | -425         |
| 事業買収等を除くFCF※       | 668          | -1,054       | -514         |

※フリー・キャッシュ・フローから、事業買収、及び投資有価証券等の売却・購入を控除しています。

© FUJIFILM Holdings Corporation 17

キャッシュ・フローについて説明いたします。

営業活動によるキャッシュ・フローは、当期純利益が増加したほか、前年同期は部材の需給逼迫に備えるために、一時的に積み増した棚卸資産を、今年度はサプライチェーンの改善により適正化したことや、前年度後半に販売好調だったことで増加した受取債権の回収が進んだことなどにより、前年に対し 907 億円増加し、1,454 億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、バイオ CDMO を中心とする設備投資の拡大により、前年に対し 248 億円増加し、1,879 億円の支出となりました。

この結果、事業買収などを除くフリー・キャッシュ・フローは 514 億円の支出となりました。

2024 年 3 月期第 2 四半期決算の説明は以上です。

## 2024年3月期 通期連結業績予想

| (単位：億円)                         |                |                                   |                                                                                                  |              |        |
|---------------------------------|----------------|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|--------|
|                                 | 2023年3月期       | 2024年3月期<br>前回予想<br>(2023/8/9公表値) | 2024年3月期<br>今回予想<br>(2023/11/8公表値)                                                               | 対前年度         | 対前回予想  |
| 売上高                             | 28,590<br>100% | 29,500<br>100%                    |  29,500<br>100% | 910<br>+3.2% | -      |
| 営業利益                            | 2,731<br>9.6%  | 2,900<br>9.8%                     |  2,900<br>9.8%  | 169<br>+6.2% | -      |
| 税金等調整前当期純利益                     | 2,822<br>9.9%  | 2,950<br>10.0%                    |  2,950<br>10.0% | 128<br>+4.5% | -      |
| 当社株主帰属当期純利益                     | 2,194<br>7.7%  | 2,250<br>7.6%                     |  2,250<br>7.6%  | 56<br>+2.5%  | -      |
| 1株当たり当社株主帰属当期純利益 <sup>(※)</sup> | 547.21円        | 560.95円                           | 560.63円                                                                                          | +13.42円      | -0.32円 |
| ROE                             | 8.3%           | 8.0%                              | 8.0%                                                                                             | -0.3%        | -      |
| ROIC                            | 6.1%           | 5.9%                              | 5.9%                                                                                             | -0.2%        | -      |
| CCC                             | 125日           | 111日                              | 111日                                                                                             | -14日         | -      |
| 為替<br>：米ドル                      | 136円           | 136円                              | 138円                                                                                             | 2円安          | 2円安    |
| ：ユーロ                            | 141円           | 146円                              | 149円                                                                                             | 8円安          | 3円安    |
| 銀価格 (/kg)                       | 93,000円        | 106,000円                          | 106,000円                                                                                         | +13,000円     | -      |

※ 1株当たり当社株主帰属当期純利益の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2023年9月30日現在の発行株式数(自己株式数を除く)を使用しています。

続きまして、2024年3月期業績予想についてご説明いたします。

2024年3月期の通期連結業績予想は、冒頭に後藤からお伝えいたしました通り、売上高は2兆9,500億円、営業利益は2,900億円、当社株主帰属当期純利益は2,250億円と、前回予想を据え置き、過去最高の更新を目指します。

## セグメント別業績予想

| (単位：億円)     |          |                                   |                                    |       |       |        |       |
|-------------|----------|-----------------------------------|------------------------------------|-------|-------|--------|-------|
| 売上高         | 2023年3月期 | 2024年3月期<br>前回予想<br>(2023/8/9公表値) | 2024年3月期<br>今回予想<br>(2023/11/8公表値) | 対前回予想 |       | 為替影響除く |       |
| ※ ヘルスケア     | 9,286    | 9,700                             | 9,700                              | -     |       | -110   | -1.1% |
| マテリアルズ      | 6,820    | 7,050                             | 6,950                              | -100  | -1.4% | -165   | -2.3% |
| ビジネスイノベーション | 8,381    | 8,450                             | 8,400                              | -50   | -0.6% | -95    | -1.1% |
| イメージング      | 4,103    | 4,300                             | 4,450                              | 150   | +3.5% | 90     | +2.1% |
| 合計          | 28,590   | 29,500                            | 29,500                             | -     | -     | -280   | -0.9% |

| (単位：億円)     |          |                                   |                                    |       |        |        |        |
|-------------|----------|-----------------------------------|------------------------------------|-------|--------|--------|--------|
| 営業利益        | 2023年3月期 | 2024年3月期<br>前回予想<br>(2023/8/9公表値) | 2024年3月期<br>今回予想<br>(2023/11/8公表値) | 対前回予想 |        | 為替影響除く |        |
| ※ ヘルスケア     | 1,028    | 1,120                             | 1,120                              | -     | -      | -20    | -1.8%  |
| マテリアルズ      | 654      | 580                               | 500                                | -80   | -13.8% | -95    | -16.4% |
| ビジネスイノベーション | 695      | 780                               | 780                                | -     | -      | -5     | -0.6%  |
| イメージング      | 729      | 800                               | 880                                | 80    | +10.0% | 50     | +6.3%  |
| 全社/連結調整     | -375     | -380                              | -380                               | -     | -      | -      | -      |
| 合計          | 2,731    | 2,900                             | 2,900                              | -     | -      | -70    | -2.4%  |

※ 2024年3月期より非破壊検査事業の売上高・営業利益の金額を「マテリアルズ」セグメントから「ヘルスケア」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2023年3月期の情報をリスタートしています。

セグメント別業績予想はご覧の通りでございます。

上期の実績や足元の事業状況、今後の市場環境を鑑みて、セグメント別の売上高および営業利益を修正します。

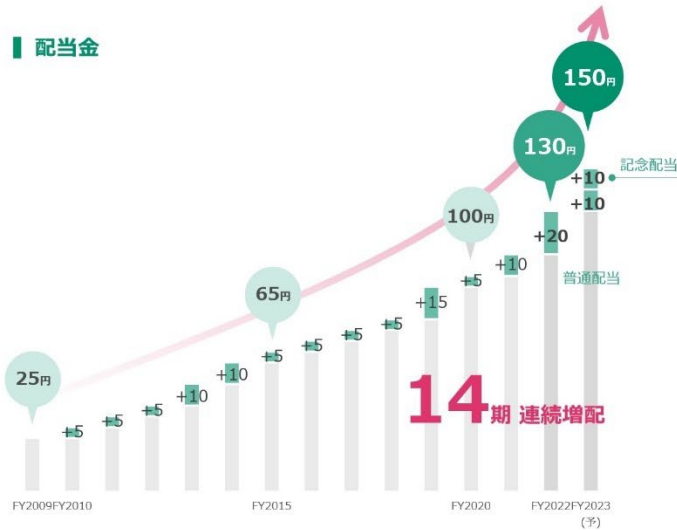
売上高は、業績好調なイメージングを上方修正する一方で、高機能材料・グラフィックコミュニケーションともに市況軟化の影響を受けているマテリアルズと、欧米向け輸出が減少しているビジネスイノベーションを下方修正します。

営業利益は、好調なイメージングを上方修正し、減収の影響に加え、電子材料において、M&A 費用の増加の影響を受けるマテリアルズを下方修正します。

## 株主還元

## 株主還元

## ■ 配当金



## 2024年3月期の年間配当予想：

- 14期連続増配となる150円/株
- 普通配当の10円増配に加え、10円の創立90周年記念配当を実施

2024年3月期の年間配当予想は、創立90周年記念配当10円を含む、14期連続増配となる、1株当たり150円を予定します。

私からの説明は以上です。

司会：当社からの説明は以上となります。

## 質疑応答

---

司会 [M]：それでは質疑応答に移ります。

芝野 [Q]：シティグループ証券の芝野と申します。3点お願いいたします。

まず、いつもと同じような質問になりますが、7～9月期の営業利益733億円、こちらが従前の社内計画に対してどういった強弱だったのかという点につきまして、連結ベース、並びに事業別についてご解説いただけますでしょうか。これが一点目です。

樋口 [A]：樋口からご説明いたします。

内部計画に対する遂行でございますが、まず売上は、ほぼ予想計画通りで、全社としては計画通りでございます。

セグメント別に見ますと、ヘルスケアはメディカルシステムが内視鏡、医療ITを中心に販売好調、為替の影響もございまして、計画過達。

マテリアルズは、半導体の市況の悪い影響を受けまして、電子材料が未達、それから印刷の需要が印刷資材の高騰で、印刷パネルといいますか、印刷需要が低迷している関係で、グラフィックコミュニケーションの減収で計画未達。

ビジネスイノベーションに関しましては、ソリューション系の好調でビジネスソリューションが伸びましたけれども、オフィスソリューションのデバイスの、欧米向けの輸出低調で未達。

イメージングはINSTAX、デジタルカメラとも大きく過達。全社としては大体予想計画通りです。

利益につきましては、予想を上回る遂行となっております。全社では。

ヘルスケアは、バイオCDMOで、ノババックスのワクチンのキャンセルフィーが上期に入ってくることを予定しておったんですけれども、契約上の支払要件の見解の違いがございまして、上期には入ってきませんでした。それは45億円です。ただし、それをカバーして、ほぼ予想通りの着地でございます。

マテリアルズは、先ほど申し上げましたように、半導体の材料とか、グラフィックコミュニケーションの減収で計画未達、約30億円ぐらいです。

ビジネスイノベーションは、売上の方は減収でしたけれども、価格改定、それからビジネスソリューションの増収でカバーし、ほぼ計画通り。



イメージングは、増収による増益という感じでございます。以上です。

**芝野 [Q]**：2 点目は、後藤社長に、イメージングについて伺えればと思います。

後藤社長の就任から、イメージングの可能性については非常に強い思いがあるということ、度々発信されてきたかと思います。実際、それを示すような力強い業績になっているんですけども、この上期で営業利益全体として 494 億円出ていて、通常、Q4 が弱いとは言っても、サードクォーターありますので、商戦が含まれるこの下期が、387 億円、前年比でも 17%の減益で下期を見ているところに少し疑問を持ちました。

こういった形で、上下であったり、下期として前年と比べて、これほどまで悪くなるような理由が具体的に何かあるのか、この点について、改めて確認させていただければと思います。

**樋口 [A]**：下期ですけども、去年の下期に米国の工場を閉じて、一時的な利益がございました。それがなくなっているということが一つと、今後の新製品の投入を間断なく続けていくために、新製品の開発費を下期に増加させている、それからマーケティングの費用も増加、マーケティング投資を増やしていることがございます。それが要因でございます。

**後藤 [A]**：続きまして、私のほうからお答えします。今、12 月に向けてブラックフライデー、11 月末のアメリカという、一番大きな商戦ですけど、仕入れ状況といいますか、動きを見えていますと、前年並みですけど、担当からの声としては、アメリカでのインフレが高い。前年通りいくかどうかは微妙だという声は聞いております。

ただ、実際、チェキフィルムの需要の逼迫であるとか、カメラも作れば売れているような状態でございます。その辺を勘案すれば、今堅めなことを入れておりますが、上に跳ねる余地はあると、私は考えております。以上で、よろしいですか。

**芝野 [Q]**：3 点目は CDMO について。今回もタンクの絵をお示しいただきました。

確認したところによると、3 ヶ月前にお示しいただいた、ずっと、色の濃淡は変わっていないのかなと思うんですが、一方で、飯田さんが前回の説明会におきまして、この 23 年、暦年の年末までに、これから立ち上がってくる予定で、既に予定されているものについては契約済みになってくるんじゃないかとおっしゃっていたかとも思います。

この辺で、今のアップデートのない図表ですけども、実際のところ、こういったステータスであるのか。12 月 14 日には、またアップデートがあるんだと思うんですけども、もし今日の時点ではうかがえること、トーン等も含めてあればと思いました。よろしくお願いします。

**飯田 [A]**：飯田のほうから、ご回答申し上げます。

この全体の、この積み木の絵の、今ご質問なのは、この濃い緑のところのステータスを中心に、ご質問かと思います。

こちらは、前回から変えていないんですけれども、ちょうど10月に、スペインのバルセロナで、CPHIという大きな展示会があって、そこで商談会がありまして、私も実際、その商談に出まして、欧米のトップファーマからの、いろいろ、商談状況を確認しております。

まさに、このところが最終契約の交渉段階になっておりまして、これについては順次、この色がまた変わっていくというフェーズに入っていくと考えております。

また今回、ヤンセン社との進捗も、今回ご報告しておりますので、これも本契約に向けて進捗があり次第、色をまた変えていくということで、ご理解いただければと思います。

**司会 [M]**：続きまして、JP モルガン証券の若尾様、よろしくお願いいたします。

**若尾 [Q]**：JP モルガンの若尾です。CDMO に関連して、三つ教えてください。

一つ目が、ファーストクォーターとセカンドクォーターで事業の環境であったりとか、トレンドに何か変化があったかどうかを知りたいです。

ファーストクォーターはセルアンドジーンが弱かったんですが、それを抗体で補うという状況だったかと思うんですけれど、セカンドクォーターに関してはどうだったでしょうか。またバイオテックの状況等に変化があれば、あわせて教えてください。これが1 問目です。

**飯田 [A]**：飯田のほうから、ご回答申し上げます。

1Q、2Q のトレンドの変化は、大きなところでいきますと、あまり変化がない、同じトレンドでございます。抗体薬が好調、セルアンドジーン、アドバンスのところが、バイオテックのファンドの、絞っているところもございまして、厳しかった傾向が続いております。

全体としましては、そういうことでございますが、抗体薬をとりますと、デンマークのパフォーマンスが非常に好調を維持しておりまして、まだ新規の設備が立ち上がらない、まだ6 基のタンクのままですけれども、このバッチのリリース、こちらのほうが非常に効率よく、バッチをリリースすることで、抗体のほうで売上が引っ張って、1Q に対して2Q のほうが売上が多かった、伸びたということで、全体としては抗体薬の比率が1Q に対して、さらに上がる傾向にあったのが、2Q の振り返りでございます。

**若尾 [Q]**：二つ目が、今回のヤンセンとの話について、もう少し伺いたいです。

実際に、本契約された際に、もうちょっと見えてくると思うんですけど、長期に渡ってというのは、どのくらいの期間なのかとか、この契約が締結すると、タンクのどのぐらいを占める話なのか。あと、そもそも御社は、多分、何かダラザレックスかなんかを受託していると思うのですが、この提携に至った背景を知りたいのと、他の会社でも、こういったことが起こりうるのかについても知りたいです。

**飯田 [A]：**飯田のほうから、ご回答申し上げます。

まず、ヤンセン社とは、具体的なパイプラインおよびそのボリュームについては、これは非開示とさせていただくことになっております。一方で、今回のこのパートナーシップの背景を少しご説明させていただきますと、二つ理由がございまして、大きく言いますと。

一つは、まずデンマークでの実績、こちらへのヤンセン社の評価が非常に高いです。信頼を置いていただいております。その背景にございますのは、正確なバッチのリリース、それからサクセスレートですね、バッチを損なわない。それから、先方から言われていますのは、アジリティというか、機敏性が富んでいるということ。新製品が入ったときのテックトランスファーの立ち上げが早いとか。総じて、このデンマークへの信頼を背景にして、今回のノースカロライナの新拠点でのパートナーシップの声明に至っております。

ノースカロライナの拠点ですけども、2025年ということでもまだ約2年先の工場でございまして、CDMO としましては、稼働もしていない設備に対して信頼をいただいている。その背景にありますのがデンマークでございます。

このノースカロライナの拠点は、デンマークの設備をクローンの形で、できるだけコピーアンドペーストで同じ設備を同じレイアウトで入れる。そうすることによって、お客様から見たときに非常に安心感がありますし、いろいろなバリデーションをやっていくときも、非常にスムーズにいくというような具体的なところ。

それから実際に、私も現場で先方のキーパーソンと会って、実際にこの工場の案内をさせていただきましたけども、その中で、現在ノースカロライナの2,500人の建設班が今、頑張っって立ち上げておりますけれども、そこの現場感とか、現場の信頼感とか、こういうところを評価いただいて、立ち上がり前の約2年前という、この異例のパートナーシップのアナウンスに至った次第でございます。以上です。

**若尾 [Q]：**これちなみに、ノースカロライナっていうことは、この商談内定っていうところに、ヤンセンの案件が入っているって見ていてよろしいですか。

**飯田 [A]：**はい。そういうご理解で結構でございます。

**若尾 [Q]**：わかりました。

最後に、昨今 GLP-1 の肥満薬が市場拡大していて、その製造も今の足元で供給が滞っていたりしていて、課題になっていると思います。

一方で、それが、強い今後の CDMO 市場拡大する一つの要因になるんじゃないかっていうのが、マーケットでも期待が高まっていると思うんですけど、御社に関しては、この GLP-1 の原薬製造であったりとか、フィル・アンド・フィニッシュを受託する可能性ってありますか。実際に話があるとか、何かあれば教えてください。

**飯田 [A]**：非常に市場が拡大していることは認識しております。

私どもは、あくまで抗体薬、細胞・遺伝子に軸足を置いておりますので、原薬のところの可能性というのはあまりないのかなと思っております。

一方で、フィル・アンド・フィニッシュのところ、こちらの需要も非常に高いと聞いておりまして、実際に、各社から引き合いもいただいているところでございます。

私ども、いわゆるフィル・アンド・フィニッシュの後工程のところに、設備増強も今しておりますけれども、私どもとしては、この後工程の設備は、あくまで DS (Drug Substance)、原薬のお客様へのエンド・トゥ・エンドのサービスを提供するための能力と位置づけておりまして、このドラッグプロダクトの後工程のところだけを切り出して受託していくところは、今のところ想定はしておりません。

**司会 [M]**：続きまして、SMBC 日興証券の桂様、よろしくお願いいたします。

**桂 [Q]**：SMBC 日興証券の桂です。3 点、お願いします。

一つ目は、マテリアルズのところの市場認識と御社の戦略の考え方について、改めてお願いします。

一部で合従連衡を含めて、国内のお話があるかなと思う一方で、御社の M&A はどちらかというと、ラインナップを広げる M&A になってきているかなと思います。業界の中でのポジショニングは必ずしも高くないというのが、それぞれ取り出すと、マーケットシェアの状況かなと思うんですけども、市場の再編の考え方、今後の御社の戦略について改めて教えてください。考え方を整理させてください。

あと、フォローアップっていうか、市況が厳しい中で下方修正をされていると思うんですけども、ターンアラウンドのタイミングとかも含めて、というところが大きな 1 点目です。

**岩崎 [A]：**岩崎から回答させていただきます。

まず今回の買収は、前工程で私どもが広範なポートフォリオを持っている中で、一つ抜けている部分の高純度溶剤、主に洗浄するプロセス、ここでのビジネスを一気に獲得しました。

この市場自体が、そもそもレジストを含んだリソグラフィの市場、それから研磨で私どもが非常に強い CMP スラリーの市場よりも、市場自体が 5,000 億円強ありまして、非常に大きな市場であります。この部分で、大きく存在感を出してビジネスを獲得していくとことがあります。

二つ目には、その相乗効果、500 から 1,000 あると言っている前工程のプロセスの中で、大きく分けて洗浄の工程ってのは三つほどありますが、その中を繋げていくことで、かなりの周辺の前後、プロセスのビジネスの獲得が期待されます。

実際、この 10 月 2 日に買収する前、ティア 1 と言われている 3 社、それからティア 2 と言われている 10 社から 15 社、ほぼ全てと面談をして、そのような期待を非常に受けております。

私どもの事業戦略としましては、ワンストップで広範なプロセスを全てカバーしていく。とりわけ強いところに、この高純度の洗浄のプロセス。それから CMP スラリー、これはロジックでは 3 割 4 割のシェアがあるわけですが、それに、少し違いますが、イメージセンサーの RGB のレジスト等々で、8 割以上のシェアを持っているもの。そういったものを、非常に強い市場シェアを持っているポートフォリオ、四つ五つ持って全てカバーしていくことで、ほぼ前工程に関しては、これで先端のお客様に、ほぼほぼ全て供給できる体制ができました。加えて BCP の体制も、グローバルに高品質なものを供給していける体制も作りました。

これからキーワードの一つに、半導体の先端のキーワードに、装置メーカー、それから材料メーカー、インテグレーションがあります。それは、プロセスをたくさん広げていくことを、今度は一つ一つ繋げていく、そういう流れにあるわけですが、それにつけても、われわれは非常に優位な立ち位置に持ってこれたと思っております。以上、回答申し上げます。

**桂 [Q]：**市況の反転と、御社の反転のタイミングを含めて。

**岩崎 [A]：**あと市況、タイミングは、先ほど、後藤、それから樋口からお伝えしました通り、今の 10 月からの、この Q3 で明るい兆しが出てきまして、この年度の Q4、それから 2024 年の夏以降回復していくものと期待しております。

**桂 [Q]：**二つ目、ドキュメントですけど、こちら市場認識と御社の立ち位置ってということで、結構各社ばらつきがあるかなっていう中で、おっしゃっていただいた輸出のところでの XC (Xerox

Corporation) さん、特に欧州が結構、急ブレーキのようにも見える一方で、比較的好調な欧州事業をやっている同業他社さんもあるかなと思います。

XC との JV 解消、あと、今後の戦略みたいなところ。何とか戦略変えられていると思うんですけども、今の市場環境の現状認識と御社の戦略について、改めてドキュメントの状況を教えてください。

**浜 [A] :** 浜からお答えします。

後藤からも説明した通り、海外向けの輸出が悪いというのは、一昨年かなり半導体が不足したりして機器が出せなかったのが、昨年かなり量が出たのが大きくて、その量に比べるとだいぶ落ち着いたところが大きな要因です。

ただ、全体の市場の動きに対して、少し弱めに動いているようなところもあるので、そこについて、警戒をしております。もちろん、既存の海外顧客に、きちっと販売していくこととあわせて、他社への OEM を増やすような動きをしております。

というのは、今、こういう市場の状況から見たり、環境のところはかなり、言われている中で、一つの機種を起こすのに、200 億円から 300 億円ぐらいかかる中で、いろいろな引き合いがありますので、そういうものを広げていくというようなこと。

もちろん自社でも海外も出て行くので、自社の場合は、どちらかというと、全ての国に出ていくというよりも、勝てる場所に限定して直接入ったり、そして今言ったような、OEM を増やしながら全体のパイを広げていくような戦略を考えています。

あと今、全体の戦略としては、ソリューションとサービスが非常に好調で、結局ソリューションサービスが今売っているところに関しては、広がることによって、そのソリューションサービスの一つ、一環として、複合機が売れる状況になっていまして、そういったことは、今後もソリューションを強化することによって広げたい。

プリンター単体でのビジネスは厳しい状況もあると思いますが、われわれは、ソリューションの一環としてのマルチファンクションのプリンターという形で売っているので、影響が出にくいのかなと推定しております。以上です。

**桂 [Q] :** 最後、後藤社長にお伺いしたいのは、次期中計というところで、発表になる、来年度されていくと思います。一方で事業環境は、この 2030 年のビッグピクチャーを描いたときと大きく、いろんなものが変わってきている部分もあるかなと思っていまして、そこら辺で現時点で策定され

ている中において、こういったところをポイントに議論されているかっていうところで、シェアしていただける内容を教えていただければと思います。以上です。

**後藤 [A]**：まず、われわれは社会課題の解決ということと、そこに書いてありますように、サステナブルバリュープラン、2030 年に 3.5 兆円の売上を上げることを、そこへの道すじを、中計のみならず、2030 年までのロードマップを今、一生懸命考えているところでございます。

その中で、核となるところは、今までわれわれが描いてきた、そのまいうまくいくことを確信しております。一つはヘルスケア。それと高機能材料、特にその中でも半導体材料は中心に据えて、更なる投資も行っていくつもりでございます。

特にヘルスケアでは、1 兆円ヘルスケアということをずっと掲げておりますが、今の調子でいきますと、おそらく 1 年前倒しの 2025 年には、ヘルスケアで 1 兆円が達成できると考えております。

その中の大きな部分というのは、メディカルが順調に育っている。日立製作所の医療画像分野を買収しまして、統合が進んでいる。今年に、来年にかけて最後の日本国内の統合をやっていますが、そこで利益はまだもっと上げられるだろう。

それと、一番の強みはメディカル分野で言えば、IT、それと AI がかなり貢献しているというところで、今で言うリカーリングビジネスといいますか、その割合を増やしていきまして、現在メディカルは 10% ちょっとの営業利益を稼いでおりますが、これを中期では 15% 以上に持っていきたいと考えております。

それから CDMO、これはもうパイが大きくなるのは間違いございませんが、そこでの利益貢献をどうやっていくのかというところを、いろいろ今、戦略を練りながら、他社の状況を見ながら、いろいろ勝ちパターンを作ろうということをやっております。

それから、それに付随しまして、ライフサイエンス、特に培地ですけど、これも規模では必ず 2030 年までは伸びるところの中で、どうやって利益水準を確保するかを考えております。

そんな中、今、中期をやるにあたって、各事業、ちっちゃいセグメントで見ても、10% 以下の利益っていうのは、これから難しいというところで、10% 以上に上げようということと同時に、それでもっていうところは、大胆にメスを入れていくつもりで、利益率の上昇を考えております。

あと高機能材料で半導体、これは間違いなく力を入れているところですけど、先ほど岩崎が言ったような戦略というので、今回のインテグリスの買収は、本格的交渉に入って 5 ヶ月でダンしたという、ものすごいスピードでやることができ、下期から、その数字も効いてくるというところで。こういうアジリティを持ちながら、半導体事業の中で、材料の富士がなくては生きていけない世界



をどうやって作っていくのかというところを考えて、それが可能になったときの利益率というのは、かなり高いものが取れるんじゃないかと考えております。

それから、ビジネスイノベーション、イメージングは本当にキャッシュをジェネレートしている事業でございますが、今、イメージングの事業を見ておわかりの通り、ちょっとマーケティングを変える、ちょっとやり方を変える、ちょっと売り方を変えるというだけで、これだけまだ利益が上がる余地がございます。

それはビジネスイノベーションも全く同じで、まだまだ世界で言えば、例えばアジアのカラー化ってどうするんだとか、まだゼログラフィーを使っていない国はそこそこございますし、そこに例えばですね、われわれ、プリント事業で言えば、フォト、印刷を含め、インクジェット、ゼログラフィー、カラープリントなどもございますから、世界でプリンティングカンパニーと言ったら、唯一無二の存在で、それをどうやってうまく噛み合わせて、事業拡大するかということも。

例えばの話、今、インドなんかでは、フォトアルバムっていうのが、これまで銀塩のペーパーとかが多く使われていたんですけど、ゼログラフィーが、ここに入る余地ありということで、われわれの既存のフォトのルートを使いながら、ゼログラフィー大型プロダクション機を売っていく。またヨーロッパの商品分野でも、これまでの刷判方式ではなくて、デジタル化が進んでいるというところで、われわれの既存の販売網も使えるというようなところで。

まだまだキャッシュをジェネレートさせていくようなものを噛み合わせた、今、中期計画を立案中でございます。4月の中旬ぐらいに、皆様方にお話しできると思っておりますので、ご期待ください。

**桂 [M]**：思った以上に、ご丁寧に、たくさんありがとうございました。以上です。

**司会 [M]**：続きまして、現在も複数の方に挙手いただいておりますけれども、終了時間が近づいてまいりましたので、大変恐縮ながら、あと1名様とさせていただければと思います。

最後に野村證券の岡崎様、よろしくお願いいたします。

**岡崎 [Q]**：野村證券の岡崎です。

一点目は、バイオ CDMO のところで、キャンセルフィー45 億円が入ってこなかったというお話がありましたけれども、この背景と、これは下期以降取り戻せるのか。あと、このワクチンのラインが他で埋めていくという話で進めていたと思いますので、状況のアップデートをお願いします。

**飯田 [A]**：飯田のほうから、ご回答申し上げます。

45 億円が上期に受領できなかったのは、先方との、元々、このキャンセルフィーを合意したときの一つの条件になっておりました。弊社が、N 社（Novavax）向けに用意した設備、これを他のお客様に転用していくという活動の中身について、弊社と先方との見解の相違が発生いたしまして、それが 9 月中に合意に至らなかったということでございます。

これについては、弊社といたしましては、全て努力義務を履行したと考えておりまして、下期に回収できると考えております。

元々、この設備を他に転用ができる想定ではなかったかというご指摘につきましては、当初、コロナの背景に、あるいはワクチンということで、比較的大型の遺伝子治療のタンクになっておりますけれども、こちらの方で埋められる可能性ありましたが、昨今の遺伝子治療、バイオテック、市況の低迷を背景に、なかなか大型の釜に対するニーズが出てこないのが実情でございます。

小さなタンクのアーリーの治験薬の受託は、比較的数字は、そうは言ってもありますけれども、この N 社向けの設備、ここにフィットする案件が出てきていないというところが、今の市況を背景にした実情でございます。以上でございます。

**岡崎 [Q] :** 2 点目は、マテリアルのグラフィックコミュニケーションについて、ここの苦戦が続いているかと思います。こちら中期計画の中で、結構、伸びを狙っていた部分かと思いますが、この足元の業績推移を踏まえて、戦略の見直しが必要なのかについて教えてください。

**浜 [A] :** 浜からお答えします。

グラフィックのところについては、ご指摘の通り、全体の計画に対して遅れている状況でして、そこは、今、問題です。

遅れている要因は、一番大きいのはインクジェットのところでした、インクジェットが、いわゆる中国の今の景気の状態から見て、中国の不動産のほうはかなり落ちていることによって、セラミック向けのインクジェット用のヘッドが大幅に止まってしまっているのが一番大きくて、ここももうちょっと量がいくと思っていたものが、いってないことによって低迷しているのが一つ。

それからもう一つは、刷版のところ、アナログの印刷需要が、思った以上に、いわゆるシュリンクしている、この二つです。

これに対して、両方とも拠点を閉鎖するとか、そういうことを今進めておりまして、これのところの成果が出るので、23 年度、いわゆる今年度はなかなか結果が出ない。24 年度についてはかなり V 字回復できるような見込みを持っていまして、私もここを今、一所懸命に組み立て直しているような状況です。

**岡崎 [Q]**：最後に、ビジネスイノベーションのところ、先ほども少し話に出た XC 社のほうで、先日リインベンションということで、これまでと地域戦略なんかも変えていくような発表をされていたかと思います。仮に、今後、彼らがより縮小戦略に入ってしまった場合に、御社の輸出ビジネス、今回はその前年との比較で落ちたというお話でしたけれども、来期以降、これが一段と減っていくリスクについてはどう考えればいいでしょうか。

**浜 [A]**：浜からお答えします。

今ご指摘のようなところって、今 XC はもちろん XC で頑張っているところがあるし、彼らもいろいろな戦略をもとにやっていると思うんですけれども、これからリスクとしては、XC が、われわれの想定以上にシュリンクすることが考えられるので、それに対して、われわれは、XC さん以外のところへの OEM 供給を増やすことと、直接売る部分を増やすことの二つをやらないといけないということで、それに向けて着々と準備を進めている。どこに供給するかとかは、具体的に言うことが難しいんですけれども、そういったものを拡大して、そういうリスクに対して備えていくことになります。

先ほどもお話したんですけど、これだけのプレーヤーがいて、市場はこういう状況ですので、環境対応とか、そういうことに対して投資ができない会社というのが、出てきておりまして、そういったところに供給をしていくようなことで、その量を補って行って、むしろ増やしていくような方向で今、進めております。

**司会 [M]**：岡崎様、ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、決算説明会を終了させていただきます。本日はご参加いただき、誠にありがとうございました。

[了]

---

#### 脚注

会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す